

## 平成三十年 宗祖親鸞聖人報恩講 ご親教

## 真宗興正派門主華園真暢

今年は、集中豪雨、地震、台風と立て続けに自然災害が起こり、日本列島は各地で甚大な被害を受け、多くの尊いいのちが失われました。心より哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われたみなさまにお見舞いを申し上げ、一日も早く復興されますことを念願しております。興正寺におきましても六月の大阪府北部地震、九月の台風の影響で大きな被害を受けました。特に御影堂や阿弥陀堂、表対面所の損傷が大きく、現在、被害状況を調査し、対応しているところです。そのため今年の宗祖親鸞聖人報恩講は、参拝者の受け付けを中止して内勤めで厳修することになり、親教も動画配信という形でお伝えすることになりました。多くの方々に迷惑、ご不便をお掛けいたしますこと心よりお詫び申し上げます。

親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」を憐れみ、見捨てず、必ず救うという阿弥陀如来の願いに出遇われました。報恩講は、親鸞聖人がお伝えくださったお念仏に出遇えた慶びと、感謝の想いをこめ、そのご恩に報いる法要です。報恩講をご縁として、お念仏のみ教えを今一度お味わい致しましょう。

ただいま真宗興正派では「今こそお念仏一つなごうふれあいの輪」を教化スローガンとし、親鸞聖人のお念仏のみ教えを多くの人々に伝えていく運動として「興隆正法運動」を展開しています。

教化スローガンの「今こそお念仏」とは、今を生きる「私こそお念仏」に出遇う身であったという気づき、領きの言葉です。親鸞聖人は、阿弥陀如来が「十方衆生を必ず救う」と呼びかけてくださったご本願を「親鸞一人がためなりけり」と受け止めていかれました。それは、煩惱具足の「私こそお念仏」に出遇う身であったという自覚の歩みです。私たち「十方衆生を救う」と誓われた阿弥陀如来のご本願の世界、すなわち「みな共に歩みゆく世界」が開かれていくのです。お念仏の歩みを通して、「ふれあいの輪」が生まれ、「つながり」あう世界が育まれていくことを教えてくださっているのです。

さまざまな現代社会の「苦悩」の中で生きる私たちです。この度の報恩講のご縁を通して「今こそお念仏」の歩みを共に再確認して参りたいと思います。



さて仏教には「諸行無常」という言葉があります。私たちの生きる世界は、絶えず変化し続け、永遠不変なるものは何一つない、という意味です。この諸行無常ということを通して理解することはできませんが、なかなか受け入れられないため、ここに「苦悩」や「不満」、「怒り」が生まれます。また「不安」や「悲しみ」が生まれるのです。このような自己中心的で愚かな相（すがた）を親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」とお示しくださ

ご親教の動画を配信しています  
下のQRコードを読み込んで  
ご覧ください。



# 本山興正寺の被害状況



「本山興正寺の被害状況について」の動画を配信しています。左のQRコードを読み込んでご覧ください。

## 大阪府北部地震による被害状況



御影堂内陣柱の歪み



御影堂の梁のずれ



余間全体に足場を組んで支えている



阿弥陀堂壁画の剥離



## 台風による被害状況



御影堂丸瓦の落下



鐘楼の一部破損



経蔵漆喰の剥離



阿弥陀堂唐戸の破損



表対面所ガラス戸の破損と雨水の吹込み



七条通の倒木と灯ろう落下

今年には多くの自然災害が日本列島を襲い、尊いのちが奪われました。ご遺族のみなさまへ心から哀悼の意を表します。また被災されましたみなさまへ心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお念じいたします。興正寺におきましても、六月の大阪府北部地震、九月の台風の影響で大きな被害を受けました。現在、被害状況を調査し対応しているところであり、宗門が一致団結してこの悲縁を転じていく決意でございます。しばらくの間、多くのみなさまには、ご不便、ご迷惑をおかけ致しますが、ご理解ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

真宗興正派宗務総長 三井雅弘